

保育計画成果報告書

法人名等	特定非営利活動法人 千の葉ミルフィーユ
施設名	作草部アーク保育園
報告者（役職）	白根 裕紀子（施設長）
住所・連絡先	千葉県千葉市稲毛区作草部町592-2
	☎ 043-307-6617
	E-mail sakusabe@ark-hoiku.jp

○タイトル（保育計画）

「創造＋想像＝想造」
「言語的＋非言語的コミュニケーション」の育み ～ 五感で感じる ～

○主な助成備品

・絵本棚 ・ままごとキッチン ・ままごと用電子レンジ ・ままごと用冷蔵庫
・大型絵本 ・絵本 ・整理棚

1. 保育計画策定の目的

千葉市の認可保育園として平成31年に開園した当園は、園庭がないため、必然的に室内で過ごす時間が長く、限られた空間での遊びを充実させるための空間構成と、好きな遊びを発見できるような遊びの配置、決まったものが決まったところにある秩序性などを考慮し、遊びのコーナー設定とその年齢に適した玩具や備品の選定が必要と考えていました。ちょうど開園2年目を迎えた当時は、法人の「遊びを通して五感を刺激する様々な体感・経験を」の保育方針に基づき、「室内環境の充実」というテーマで保育環境を見直しているところでもありました。主に、室内のままごとコーナーの充実や絵本コーナーの設置は最重要課題として前年より模索していたため、今回のこの助成事業を活用し、必要となる備品の整備を希望することと致しました。

2. 具体的な実施内容 どのように提供したか

【ままごとコーナーの設置】

乳児クラスにままごとキッチンを設置、幼児クラスにままごとキッチン、冷蔵庫、電子レンジを設置し、ままごとコーナーを確立させました。

家具の設置に合わせて、ままごと遊びに必要なと思われる食器類やお世話のグッズ等は手作り品も加えながら少しずつ準備し、また、子どもたちの遊びの様子を観察しながら、想像の世界が広がるように増やしていくことにしました。



《乳児用キッチン》



《幼児ままごとコーナー》

- 設置した家具の他に、必要な道具や食器は整理整頓ができるように仕分けをし、収納場所を明確にしています。



《見立て遊び用の材料》



- 見立て遊びができるよう、色とりどりの材料や役になりきるためのおんぶ紐やスカート等は手作りして増やしています。



《ままごと遊び用のおんぶ紐やスカート・布団》

【絵本コーナーの設置】

廊下の限られたスペースですが、絵本コーナーを設置しました。そこには、大型絵本と各種絵本を対象年齢別に色分けして収納し、子どもたちが自由に取り出せるようにしています。

園内で絵本係を選出し、環境の保持に努めています。



- 上段:読み聞かせ用の大型絵本
- 下段:片付けもしやすいように色で分類をしています。

【整理棚の設置】

各クラスに整理棚を設置し、決まったものが決まったところにある秩序性を保つようにしました。

遊びたい玩具がいつも決まったところにある事で、どこに片づければ良いのかが明確になり、子どもたち自身が率先して片付けができるようになっています。



- 整理棚には、カゴやケースを揃え統一感を持たせています。主に、ままごと・机上遊びの道具を収納しています。

3. その成果と評価

【ままごと】

「ままごと遊び」は食べること（食）、暮らすこと（住）、身につけること（衣）と、最も身近な体験や経験を模倣または再現できることもあり、乳児も幼児もすぐに遊びに溶け込むことが出来ました。その遊びを通して、子ども同士や保育者との会話やコミュニケーションが生まれ、動きや言葉が広がり、イメージを膨らませながら遊びが展開されるようになりました。

乳児クラスでは、他の子が遊んでいる様子に興味を持って模倣することから始まり、遊びの連鎖が生まれました。同じ空間で遊んでいると、いつの間にか“調理する人”“食べる人”等の役割も生まれ、保育者が仲介しながらも“個”から“複数人”での遊びへと展開していくようになっていきました。その中で、「かして」や「どうぞ」、「ありがとう」等の言葉や身振りでのやりとりが生じ、必要な言葉や友だち同士の繋がりも得ることが出来たように感じます。

幼児クラスでは、今まではままごと遊びに対する興味があまりなく、盛んには行われていませんでしたが、環境が整うことで興味を持つきっかけとなり、“おうちごっこ”“お店屋さんごっこ”へと遊びが広がっていきました。

そのような日々の遊びの姿から、主活動に『お店屋さんごっこの日』を設定し、その日に向けて子どもたちと一緒に準備を重ねていくことにしました。どんな商品を売るか（どんなお店にするか）を子どもたちと一緒に考え、『お弁当屋さん』『焼きそば屋さん』等と、子どもたちのアイデアを具現化していきました。遊びの中に必要な小道具は、自分たちでイメージして様々な素材を使用して作りながら、見立てることで創造（想造）の幅を広げていく姿もありました。商品を作っていくうちに、子どもたちの意欲も増し、期待を持ちながら準備に取り組むことが出来たように感じます。

また、「スーパーの店員さんはどんなことをしているのか」を実際に知るために、スーパーに協力をいただいて、年長児は給食の食材を買う『お買い物体験』をしてから、お店屋さんごっこ当日を迎えました。個々に様々な期待を抱いて迎えた当日は、自分たちがイメージするお店屋さんの役になり、「いらっしゃいませ」「〇〇いかがですか」等の言葉を発しながら役になりきる事ができました。

子どもたちからアイデアを募る中で、時には意見の食い違いもありましたが、年長児を中心に子どもたち同士で解決策を導き出そうとするなど、他者の思いにも気づき、それを受け入れようとする姿も見ることができました。

このような会話や取り組みの中での1コマ1コマの小さな積み重ねが、今後の道徳性や社会性の土台形成につながっていくのだろうと感じています。



【絵本コーナーの設置】

絵本の色分けをしたことにより、子どもたちがどこに何を片付けるのかが明確になり、迷わず収納することが出来るようになりました。

幼児クラスでは、当番活動の1つとして“絵本の整理”という内容を盛り込むことで、当番は責任を持って色分けをしながら整理整頓を行う姿が見られています。最近では、色だけでなく絵本の大きさを揃えながら収納したり、破れている絵本に気づいたり子どもたち自身から気づき、発信してくれることも増えてきました。

また、保育者がある物語の読み聞かせを行ったあと、主人公がその後どうなったのかを想像しながら、子どもたち同士で語り合う姿がありました。絵本にはその答えが載っているわけではありませんが、子どもたちが物語の続きを想像し、その答えを導き出そうとする姿は、絵本の世界に魅了されていた証なのではないかと感じました。

乳児クラスでは、食べ物や乗り物など身近な生活と結びつく内容のものや、子どもたちが興味を持っている内容の絵本を選択することで、より親しみを持つことが出来ました。そして、個々に『お気に入りの本』ができ、繰り返し見る事や読んでもらうことを楽しんでいきます。さらに、応答的な関わりを意識することで、絵から想像する言葉を発したり、絵に登場するものと同じ玩具を持ってきたりと、子どもたちの主体的な姿を垣間見ることもつながりました。

大型絵本は保育者の読み聞かせ専用としていますが、子どもたちは保育者に読んでもらう事を楽しみにし、大型絵本の迫力や魅力に惹き込まれています。読み手によって声のトーンや抑揚に多少の違いがありますが、子どもたちはそれをも楽しんでいるように感じます。最近では、年長児が保育者代わりとなって年下児に絵本の読み聞かせをする姿があるなど、言葉や文字の習得に伴い表現する場が広がっています。

さらに、今年度の運動会ではテーマを『絵本の扉』として、親しみを持った絵本をモチーフにした競技内容を考え実施しました。絵本のストーリーをオリジナルにアレンジしたり、主人公になりきったりしながら、競技に親しみを持って楽しみながら参加することが出来ました。現在は、絵本を聞いてそのストーリーを演じてみる『劇あそび』へと展開しています。

4. 今後の課題と展望

この1年間は「絵本とままごと」について、保育者自身が様々な角度から子どもたちにとってより良い環境を考えることが出来ました。今後も、子どもたちの遊びを観察しながら、夢中になって遊べる環境を広げていきたいと思っています。

また、今年度実施した運動会の内容を次年度にもつなげ、子どもたちが主体的に活動できるようにすること。幼児クラスで行った『お店屋さんごっこ』を乳児クラスも巻き込んで、園全体で実施するなど、今年度の活動内容の更なる展開を目指したいと思います。

以上